


概要版

# 県都青森市における 道路除排雪の改善に向けた 県の見解について（報告書）

令和8年6月5日  
青森県

- 
- A yellow front loader is shown in the process of clearing snow from a road or parking area. The scene is set in winter, with a snow-covered ground and a clear blue sky. In the background, there are utility poles, power lines, and some buildings. The loader is positioned in the center-right of the frame, with its bucket lowered and pushing snow. The overall atmosphere is bright and clear.
1. 昨冬の時系列整理
  2. 県による市町村支援（総括）
  3. 青森市への支援（総括）
  4. 青森市に対する「技術的助言」に至った経緯
  5. 次の降雪シーズンに向けた取組状況

# 1. 昨冬の時系列整理

## 2026年1月

- 21日
  - 青森県豪雪警戒本部
- 27日
  - 国スクラム除雪（弘前市）
- 29日
  - 青森県豪雪対策本部
  - 知事→青森市長へ除排雪の改善を要請**
  - 青森市へ技術チーム派遣開始**
  - 21自治体へ災害救助法を適用

朱書き：青森市に関係するもの

## 2026年2月

- 1日
  - 陸上自衛隊に災害派遣要請
- 2日
  - 「資機材マッチング」スタート
- 3日
  - 国スクラム除雪（青森市）
- 4日
  - 知事→青森市長へ要請**
    - ①危険箇所の把握
    - ②「除排雪が来ているか」で状況判断
    - ③一社一社に出動依頼すること
  - 国スクラム除雪（藤崎町）
- 5日
  - 代行除雪（弘前市）
- 6日
  - 青森市長→知事へ緊急支援要請**
  - 県による代行除雪（青森市）2/6～2/8**
- 13日
  - 知事要望（国交省、総務省）
- 15日
  - 青森市への財政支援の意向を発表**
  - 代行除雪（五所川原市）2/15～2/17
- 16日
  - 県スクラム除雪（弘前市）
- 18日
  - 県による生活道路の検査**
- 19日
  - 生活道路8工区の「やり直し」指示**
- 21日
  - 市による「生活道路の作業完了」の公表**

## 2026年4月

- 1日
  - 知事定例会見（青森市へ回答を要請）※P4～6参照**
- 10日
  - 青森市全員協議会**
- 16日
  - 知事会見（4/10の公表内容は県民や市民の理解が得られるか大きな疑問、検証も不十分→青森市へ回答を再要請）**
  - 財政支援を含む県からの支援が、穴埋めで終わることは絶対にあってはならない。検証結果の説明責任がある。**
  - 検証が未了の状態では、連携の準備は整っていない。**
- 17日
  - 青森市全員協議会**
- 28日
  - 知事定例会見（青森市からの回答は未受領）**
- 30日
  - 青森市→県への回答**  
※内容は不十分な状態→「再質問への回答」を条件に受理

## 2026年5月

- 1日
  - 県→青森市へ再質問を送付**
- 13日
  - 青森市→県への再回答を受理**  
※内容が不十分な状態は改善されていないと判断
- 15日
  - 県→青森市へ、地方自治法に基づく「技術的助言」を发出**

## 2. 県による市町村支援（総括）

※朱書き：県による支援

【資機材マッチング支援】 ※国土交通省、青森県建設業協会、青森県トラック協会の協力による

- ・ **ダンプトラック 延べ 623台**
  - ・ **歩道用除雪機（貸出） 18台**
  - ・ **除雪ドーザ（貸出） 1台**
  - ・ **小型ロータリ除雪車（貸出） 1台**
- ※県による差額負担：約6,100万円



【受援市町村】※2市2町  
青森市、弘前市、平内町、鯉ヶ沢町

【代行除雪】※経費は全額県負担：約1,600万円

- ・ **弘前市道 元寺町（もとてらまち）線 延長150m（2/5）**
- ・ **青森市道 流通団地内 延長6.4km（2/6～2/8）**
- ・ **五所川原市道 下平井（しもひらい）・姥薮（うばやち）線 延長1.2km（2/15～2/17）**

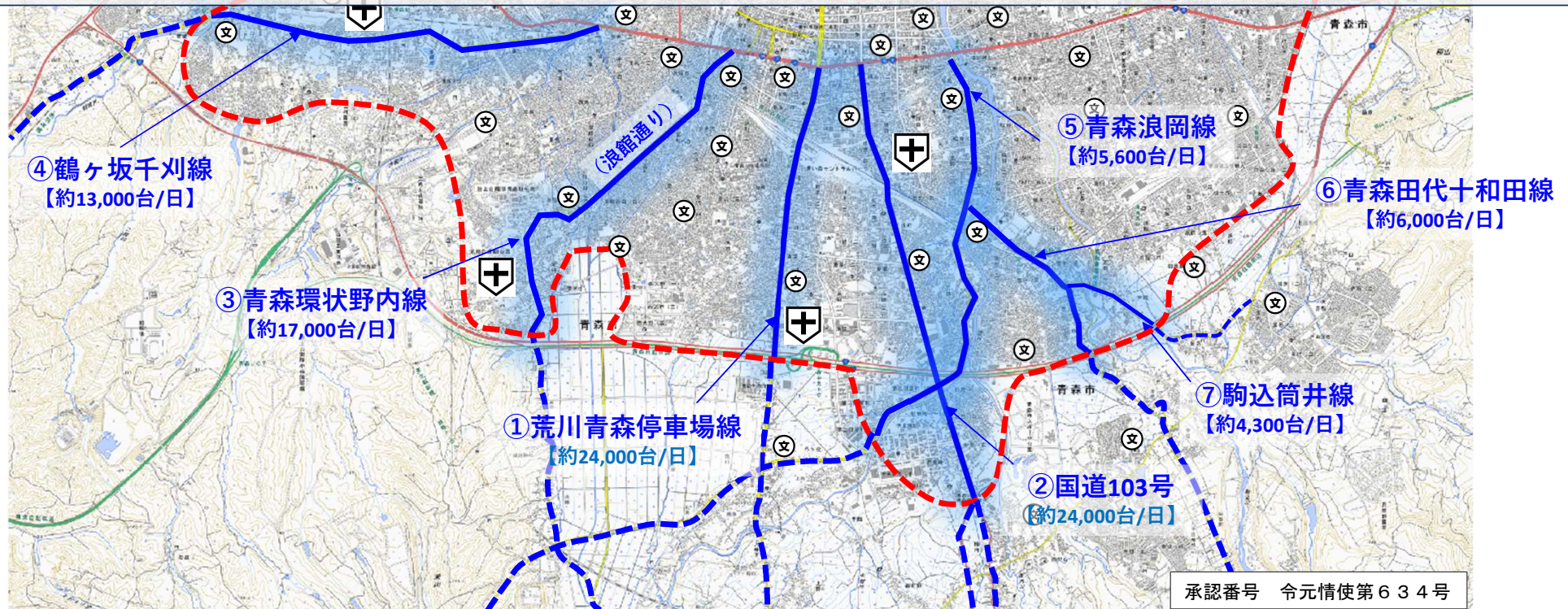
【スクラム除雪】

- ・ **弘前市道 城東1号線、城東3号線、末広早稲田1号線、末広早稲田2号線⇔国道7号（国交省：1/27）**
- ・ **青森市道 新青森駅前大通り線⇔国道7号（国交省：2/3）**
- ・ **藤崎町道 新城東一本木線⇔国道7号（国交省：2/4）**
- ・ **弘前市道 大久保10号線⇔県道弘前環状線（青森県：2/16）※経費は全額県負担：約80万円**

### 3. 青森市への支援（総括）

- ・ ダンプトラック支援（延べ541台、差額支援：約5,200万円）
- ・ 代行除雪（2/6～2/8、6.4km、14時間：約200万円）
- ・ 技術チーム派遣（延べ16人、延べ6日・32時間）
- ・ 生活道路の完成検査（2/18、20人×4時間＝80時間）
- ・ 財政支援（約9億3,000万円、事務処理：延べ7人・55時間）
- +
- ・ 市の検証作業を支援：県除排雪に係る全データ提供（5/18）

財政支援：合計 約9.8億円  
 人的支援：延べ43人、延べ167時間

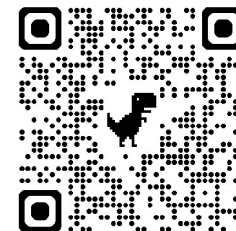


## 4. 青森市に対する技術的助言に至った経緯（その1）

青森県からの照会に対して、青森市から提出された回答骨子は以下の通り。

「青字」は県が不十分と判断した視点など。

なお、青森市の回答（全文）は、青森市のホームページで公開中。



青森市回答

### 4月30日付：回答骨子

#### 1. 工区の9割が「良」「可」とは市民の生活実感と大きく乖離しているのでは？

(市) 市民は「豪雪時のみ」の印象が強い。市の評価は「11月から3月までの全期間」で評価したものであり、認識の差が生じたと考えている。

※生活実感と評定結果に大きな乖離が生じるような評定制度は妥当なものとは言えない。

シーズンを通しての評価としても、「良」や「可」が全体の約9割を占めているのは不適當。

現時点で評価制度の見直しの具体的な方向性が無く不十分。

#### 2. 完了まで長期間要していることは契約を正しく履行していると言えるか？

(市) 1月20日から2月3日までの15日間において、昼夜を問わず継続して除排雪作業を実施。

※「受託事業者が15日間、昼夜を問わず継続して除排雪委託作業を実施していた」とあるが、最大で30日以上除排雪作業に入らない工区もあるなど、作業していない工区や期間があったことを青森市自身が別の資料で認めていることとも矛盾。

#### 3. 資機材（業務履行能力）を有していない業者と契約していたのではないか？

(市) 平年並みの積雪では問題なく対応できていた。

※令和6年度も豪雪であり、「令和6年度並み」の豪雪は十分に想定できていたのではないか。

定量的な資機材力や実稼働力を「正確」に把握できておらず、改善の見通しが無い。

## 4. 青森市に対する技術的助言に至った経緯（その2）

### 4. 不可業者へ支払いする根拠は？

(市) 不可業者には増額変更していない。評価は業務実施能力の向上を目的として実施しているもので、結果により契約解除するためのものではない。

※「不可」に対して当初契約額をそのまま支払うことの妥当性・正当性を聞いているが、言及がない。

### 5月13日付：再質問に対する回答骨子

#### 1. 市の回答は市議会の理解を得たものであるか？

(市) 全員協議会等において説明した内容や答弁を踏まえ整理したもの。 ※「理解を得られたか」について言及がない。

#### 2. 青森市の除排雪を「客観的」に確認出来るデータまたは根拠の有無は？

(市) 作業完了は業者から提出される作業日報、タコメーターチャート紙、職員による現地パトロール等により確認。

※青森市が「指令は出している、作業は完了済み」等としていながら、市民の皆様方から「作業が開始すらされていない」という声が上がってくるのが問題。手作業による「作業日報」や、実際に稼働した工区までは特定できない「タコメーターチャート」等は、客観性、正確性、適正性が担保されるものではない。

#### 3. 11月から3月までの5ヶ月間で6～7回しか出勤していないのは明らかに少なすぎるのでは？これも「認識の差」？

(市) これは出勤指令の回数。市は作業を一巡するまで連続的に指令を発出している。

※1) 除排雪は「指令」回数で評価すべきではない。「除排雪が出来ているか」で評価すべき。

※2) 「5ヶ月で6～7回の指令」となると、1回の指令につき作業が完了するまで約3～4週間要したことになり、「20日以上要したのは22工区（全体の僅か1割）」とした市の資料とも矛盾する。

## 4. 青森市に対する技術的助言に至った経緯（その3）

5月13日付：再質問に対する回答骨子

4. 工区によっては数週間も着手できなかったことは事実。これは「全工区に同時着手できる資機材力を有していなかった」という理解で良いか？
- (市) 通常時の降雪に対応できる機力は有している。全体としてダンプトラックやオペレーターの需要が逼迫していた。機力・人員体制を含めた作業体制の検証や見直しを進める。
- ※「オペレーター需要が逼迫」、つまりオペレーターが重複していたことであり、「同時着手できる体制ではなかった」。見直しの「表明」ではなく、具体的な見直し「項目」が必要。
5. 「作業の完了目処を指示しない」、「作業の完了目処を把握できない」ということは、実際の資機材力を正確に把握できていなかったからでは？
- (市) 事業者から提出される作業計画書や使用重機台数、車検証等で把握している。シーズン中は、事業者から提出される残路線図等で作業完了目処を把握している。
- ※その情報を、市民の皆様からの問い合わせの際の回答、あるいはホームページ等で公表することができなかったのか。シーズン中に「出来ていなかった」ことを、シーズンが終わってから「出来ていたかのように」評価することは、次シーズンに向けた取り組みに支障を生じさせるもの。
6. 2年連続の豪雪、少なくとも「令和6年度並みの豪雪」は想定できたのでは？
- (市) 令和7年度は短期集中による記録的な降雪が発生するとともに、国・県・市の排雪時期が重なるなど、**令和6年度を上回る対応が必要**となった。
- ※除雪作業には触れていない。青森市の累積降雪量は令和6年度の方が多かった（R6：669cm＞R7：653cm）降雪スピードも大きな差は無い：37cm/日（R7.12.27）≒31cm/日（R7.1.2）シーズン契約に起因する、長期間における除排雪の未実施区間の発現という現実から目を背けるのは、次シーズンへの取組に支障を生じさせるもの。

## 4. 青森市に対する技術的助言に至った経緯（その4）

7. シーズン前に資機材が複数工区で重複しているという事実を把握していたか？

(市) 事業者が提出する使用ダンプ届において、一部重複したダンプトラックがあったことは把握。

※なぜダンプトラックのみ？肝心の除排雪機械については回答されていない。

8. 「不可」業者に増額変更しないことは契約書通りとして、当初契約額を「満額」支払うことの根拠は？

(市) 不可業者に増額変更は行っていない。評定の結果によって契約を解除しようとするものではない。

※4/30付の回答「4」と同じで、質問に回答されていない。

### 【総括】

- ・ 「行っています」、「想定外」という視点の評価で、「出来ているか」の「成果」評価になっていない。
- ・ 回答が「定性的」、客観的データも保有していない。
- ・ 除排雪業務全体を「定量的」に把握してこそ、「どこをどれだけ改善する必要があるか」等の見える化につながり、市民の皆様へ「分かりやすい」形で改善策を提示可能となる。

### 5/15：地方自治法に基づく「技術的助言」へ

1. 資機材力の現状把握・可視化
2. 除排雪オペレーションの適正化
3. 作業実態に見合った支払い
4. 管理・評価体制の見直し
5. 危機管理体制の構築
6. 市民への情報提供

早期に具体的な改善策や必要な予算化等につなげ、次シーズンに備えることを期待。

## 5. 次の降雪シーズンに向けた取組状況

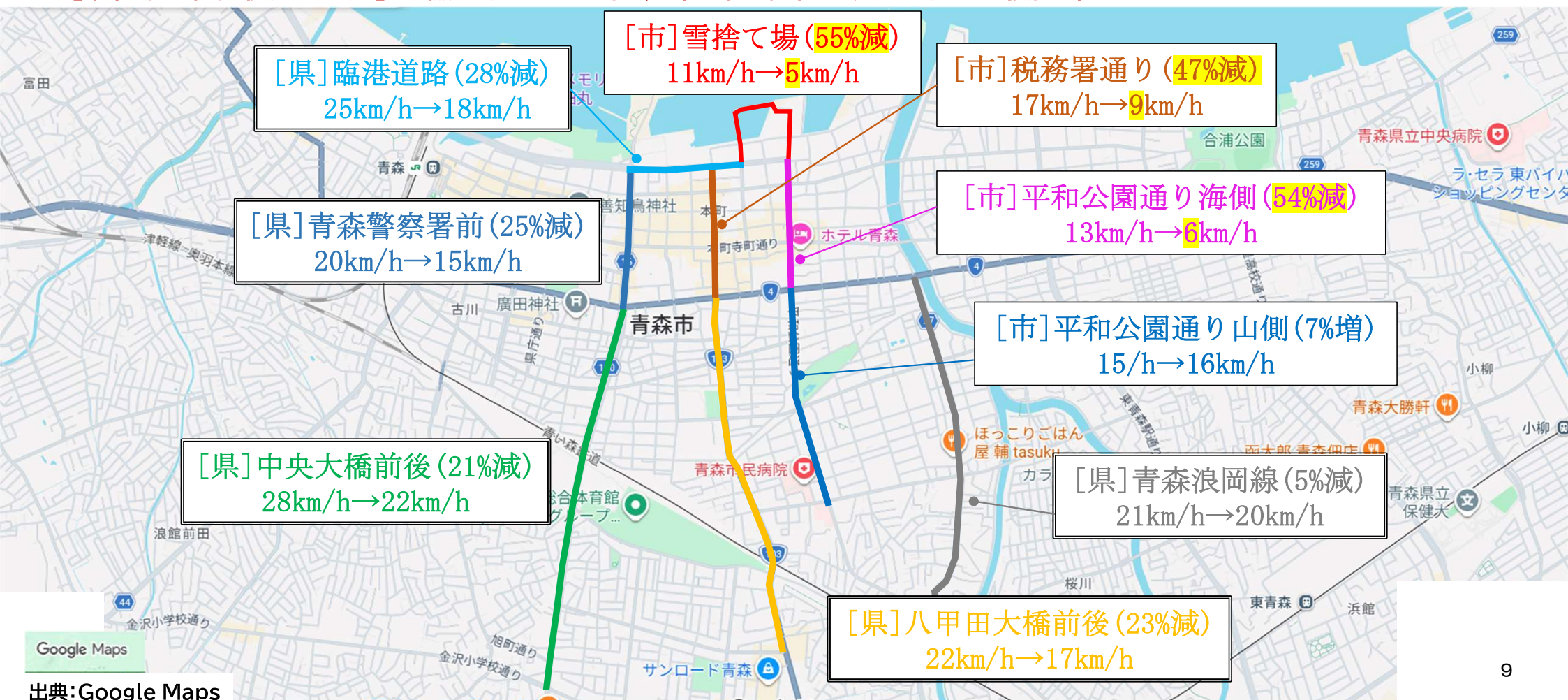
1. 県管理道路に関するデータ分析・検証・・・4月末までに完了
2. 「道路除排雪に関するQ & A」・・・5/8から公開
  - ・ 県管理道路の除排雪に関する正確な情報を広く県民の皆様にお知らせすることを目的
  - ・ 「除排雪全般」、「オペレーション」、「評価」、「情報公開」の4つの分類で県の道路除排雪を解説
  - ・ 「除排雪管理システム（除雪車の稼働軌跡）」や「作業日報（システム自動集計）」等の実例も添付
3. 道路管理者間の連携
  - ・ 各道路管理者（国、県、市町村）の検証結果を持ち寄り、具体的な連携メニューにつなげていきたい  
＝エビデンスに基づく実効性のある連携メニューへ
  - ・ デジタル技術を活用した「青森ゆきみちDX」の取組、市町村と連携した「青森県データ連携基盤」の構築に向けた取組を着実に進める。
4. エビデンスに基づく県管理道路の改善視点（イメージ）は「別紙」参照
  - ・ 次の降雪シーズンに間に合わせるため、分析・検証結果を踏まえた具体的な改善策の検討に着手中
  - ・ （×）やっている （○）出来ているか の視点
  - ・ 夏頃を目処に、改善メニューの「見通し」を公表→具体的な準備に移行
  - ・ 降雪シーズン前までに、改善メニュー「実行版」を公表



## 排雪運搬路の所要時間・速度の変化（平時→豪雪時の比較）

- ・共同雪捨て場に接続する「（市）税務署通り」、「（市）平和公園通り（海側）」の運搬速度が低い。
- ・豪雪時には、当該路線の運搬速度は半分以下に低減している。

【改善策の検討視点（例）】運搬効率アップ→除排雪水準の見直し、整合性→交換除雪など



# 稼働時間と降雪量との関係分析（浪館通り：県道青森環状野内線）



- ・降雪が特に多かった1/19～2/9までの22日間で、「目標時間」までに作業は全て終了している。ただし・・・
- ・作業中に10cm以上の降雪が観測されたのは4日（21%）→作業直後には路面状況の悪化が始まっているケース
- ・作業後の日中に10cm以上の降雪が観測されたのは10日（53%）→作業後の日中に路面状況が悪化するケース

➡【改善策の検討視点（例）】  
 交通量が増加する日中でも弱点箇所（踏切部、交差点部等）にはピンポイント対応できる体制

